

中国の大型揚陸艦

漢和防務評論 20180806(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国は、大規模上陸作戦に使用する大型揚陸艦の建造を開始した可能性があります。
この揚陸艦は、米海軍の強襲揚陸艦ワスプ並みの4万トン級と推測されます。クアラルンプールの2018国際軍事装備展示会では、全通甲板式揚陸艦の模型を展示開始の前日に中国側が突然撤去するハプニングがあったとのことでした。
このことからKDRは、撤去された模型は現在建造中の075型大型揚陸艦に形が似ていたのではないかと指摘しています。

KDR クアラルンプール報道：

DSA 国際軍事装備展示会でちょっとした事件があった。中国船舶会社の展示会場で、展示が始まる前日に、已に準備してあった大型模型の展示品を作業員が急いで撤去した事件である。この展示品は20000乃至40000トン級の全通甲板式揚陸艦の模型であった。KDRは、当然この事件の細部を調査した。彼らに質問すると次のように答えた：展示許可証が得られなかったので、展示できない、と。しかしこれはおかしい。KDRの詳細な調査の結果、この模型は、すでに昨年LIMA（マレーシア、ランカウエイ島での海・空軍装備展示会）等々の展示会で展示されている。許可証がないとはどういうことなのか？同展示品は、全通式甲板を採用し、同時に4機の大型ヘリが離着陸できる揚陸艦の模型である。大きさは公表されていない。しかし説明員はメディアに対し簡単に説明した：2万トン以上である、と。武器系統は簡単な装備のみで4門の730型或いは1130型CIWSが搭載されている。

中国軍事貿易会社は、国外の展示会に模型を出展する際は許可が必要である。たとえ国内の珠海航空ショーであっても、大型国営武器製造会社がどの模型を展示するか自ら決定することはできない。現在マレーシア海軍は、1万トン以上の揚陸艦を獲得するため、入札を行っている。これは東南アジアの海軍では最大の揚陸艦で、中国の会社が参加している。KDRがマレーシア海軍の展示センターを取材した際に、入札関係者は次のように述べた：今年中に決定されるであろう。最初の計画は1艘である。中国などの国家が入札している。また中国はマレーシア海軍の近海パトロール艦にも入札している。中国は落札できる可能性がある、と。

通常、珠海航空ショーや国外の大型軍事装備展示会においては、中国の会社が携行するすべての展示品が現場に到着すると、元の国防科工委、現在の国防科工局は許可証を出した。中国軍が装備する武器装備の場合は、総装備部（当時）の許可が必要だった。中国軍が装備していない武器装備は、原則上、国防科工

局の許可証だけで海外で展示できた。

珠海航空ショーでは、大型軍事貿易会社が通常展示開始前日に模型の展示を取り消すことがあるが、今回はすでに開梱し、取付ける準備段階で突然通知された。この種の状況は、通常総装備部の指示による。理由は次のとおりである：

1. 法治国家ではないので、総装備部の指導者が現場で見て勝手に展示を中止させた。或いは軍がこの種の装備を購入しようと正に考慮中であった。或いは軍が生産中の装備品と同種の装備品であった。或いは総装備部の指導者が個人的事情で決定した。2. 概念的な装備品は、完全に会社が独自に設計した製品である。何らかの理由があれば、会社が自ら展示しないことを最終的に決定する。

KDRの取材経験によると、すでに中国軍が装備している装備品は、如何なる種類の装備であろうと、許可は降りず、製造会社は絶対に展示しない。

中国は、071に代わり4万トン級大型揚陸艦の建造を開始しようとしている。

071は、2万トン級で、すでに5艘建造している。ある説によると、上海滬東造船所で竜骨の設置を完了し、分割建造が開始されたという。これは可能性が高い。この種の大型汎用上陸艦の設計はかなり以前から開始されている。

KDRが掌握した正確な情報によると、075の建造については、中国造船工業会内部で大きな争いがある。大連造船所が建造を希望している。なぜなら設計の特許権は同集団が保有しているからだ。上海の滬東造船所は軍需品の生産が先細り状態で、現在は054を建造しているだけである。しかも同ミサイル護衛艦の建造は間もなく終わろうとしている。次は054Bの生産が控えているが、滬東造船所は軍需品生産ラインを一定の程度維持することを希望している。

状況は、1艘目の国産空母の場合と似ている。南北の両大規模造船所による争奪戦である。権威筋は次のように述べた：實際上、造船所自身は、軍需品の生産を希望しない。その理由は、利潤が少なく、支払いが遅れるからである。しかし” 光栄 ” ある政治任務であり、各種のコネも得られ、その他の利益にもつながる。

肯定できることは、中国海軍は多くの075を必要としていることだ。現在検討中の生産方法は：大連と上海が同時に生産することである。これが最終決定になるかどうかは判明するのは、時間が必要である。

075は、20機以上の輸送ヘリを使用して、一度に台湾東岸へ大規模上陸ができる。

DSAで中国が展示品を撤去したことから見ると、展示しようとした大型揚陸艦の外形が正に建造中の075に酷似している可能性が極めて高い。或は2者とも多くの汎用設備を使用しているため、軍事委員会装備開発部が臨時に撤去を決定したか？であろう。

もし現在075の建造がすでに開始されているならば、002の空母の建造期間を参考にすると、遅くとも2020年には進水し偽装し、2022年には海軍が装備できる。これと同時に2艘目の075の建造に着手することができる。

以上